

夢中熱中青春ライフ!



⑨

剛柔会大館支部(空手道)

寒げいこというと、空手道や柔道、剣道が代表的なものです。今回は、一月十六日に寒げいこを行う予定の剛柔会大館支部をご紹介します。大館支部の指導者で、県空手道連盟常任理事の木村睦子さんにお話を伺いました。

一人から始めて 五年目で支部に

大館支部のそもそもの始まりは、比内町の公民館でいっしょに空手道を習っていた長内さん(現在、支部責任者)が、武道館



道着姿が板についている木村さん。東北では唯一の女性指導者です。

を借りて一人で練習するようになった昭和五十六年だったと思います。私は長内さんに声を掛けられたのをきっかけに、一緒に練習するようになったんです。その後、人も増え始めてきたので、昭和五十八年に剛柔会大館同好会を設立し、週二回の練習や試合、昇級試験への参加など積極的な活動をしてきました。その活動と実績が認められ、昭和六十年から支部に昇格し、現在に至っています。

現在の会員は三十人。小学二年生から四十歳の会社員までバラエティーに富んでいます。また、特徴ともいえることは、指導している私が女性のせい、会員の半数くらいが女性



練習に集まった会員の皆さん

なんです。道着を着たら、男も女もありませんけど...

私たちの手で 国体選手を

私たちは、空手道の技を教えることはもちろんですが、礼儀もきっちり教えています。空手道を含む武道は、「礼に始まり礼に終わる」といいますから、練習は、二時間という限られた時間内で行っていますから、密度の濃いものになっています。大人の私たちは、大きな声(気合)を出し、気持ちのいい汗をかくことがストレスの解消にもなっているみたいです。

将来は、私たちの手で国体選手や世界に羽ばたいていける選手を育ててみたいです。夢は大きくもった方がいいですからね。

釜石発 → 大館着

前略

大館市民になりました⑩

▽今回は獅子ヶ森の鈴木和浩さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

私と妻と子供二人、それと母の五人です。長男と長女は釈迦内小学校の五年と二年です。

Q・どちらから転入されましたか?

昨年の四月に岩手県の釜石市からです。私の場合は転勤ではなく、大館が気に入って住みたいと思ったから越してきたんです。妻の出身が大館ですから、ちよくちよく遊びに来るうちにそう思ったんですよ。

Q・大館の印象はどうですか?

町が広く、温泉がたくさんあるなって感じました。それが住みたいと思った最大の理由ですけど。釜石だと盛岡や花巻まで行かないと温泉がないし、町が狭く、平地が少ないんですよ。

Q・食べ物などはどうですか?

きりたんぼはおいしいですね。ただ、県外の多くの人には、串に差しているみそのついたものだと思っただけ、ナベの方をもっと売り込んだらいいと思いますね。

Q・大館にどんなことを望みますか?

総合病院がもう一つくらいほしいですね。市立病院は患者が多いし、待ち時間が長いですから。岩手には県立の病院があちこちにあるんですが、秋田は少ないみたいですね。あと、小さいころからスポーツに親しめる環境やいろんなスポーツから好きな種目を選べる環境を作ってほしいです。



《後列左から》和浩さん、まゆみさん、大輔くん、利子さん、美香ちゃん